

授業科目 助産学実習

【担当教員名】 下山 博子 他		対象学年	4	対象学科	看護（助産師コースのみ必修）
		開講時期	集中	必修選択	選択
		単位数	9	時間数	405
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	
◎		◎		◎	
【概要・一般目標：G10】 妊娠期から産褥期における妊婦・産婦・胎児・褥婦・新生児とその家族に対して、助産を実践できる基礎的能力を修得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 妊婦・産婦・胎児・褥婦・新生児が、生理的範囲内で正常に経過しているかアセスメントできる。 妊婦・産婦・胎児・褥婦・新生児とその家族に対して必要な助産実践ができる。 妊婦・産婦・褥婦とその家族の心理社会的状態をアセスメントし、助産実践にいかすことができる。 妊婦・産婦・胎児・褥婦・新生児とその家族のリスク状態をアセスメントし、助産実践にいかすことができる。 母子と家族に対する助産師の役割・態度について考察することができる。 					
回数	授業計画・学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1～	妊娠期から産褥期・新生児期における保健指導・助産過程 正常分娩介助・助産過程 ハイリスク児の看護 助産業務管理		1～5 1～5 1～5 1～5	実習施設において、妊婦健康診査と保健指導（集団指導含む）、産褥期・新生児期の保健指導（退院後も含む）をおこなう、担当：下山 博子 他 実習施設において、10例以上の正常分娩を介助する（出生直後の新生児へのケアも含む）、担当：下山 博子 他 実習施設において、帝王切開分娩の見学、ハイリスク児の看護を見学実習する、担当：下山 博子 他 実習施設（助産所）において、助産業務管理の実際を見学、実践する、担当：下山 博子 他	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		助産関連科目で使用した教科書を活用する			
参考書		必要に応じ随時提示します			
その他の資料		助産学実習要項			
【評価方法】 看護実践内容・実習態度（保健指導評価表・分娩介助実習評価表・間接介助実習評価表）50%程度 実習記録（助産過程評価表）50%程度			【履修上の留意点】 指定された科目の単位をすべて取得していることが必要です。助産学関連科目はもちろんのこと、これまでに学んだすべての内容を復習して実習に臨んでください。対象者の安全と満足度に十分配慮すると共に対象者の反応を重視し、課題意識をもって主体的に学習してください。 直接分娩介助事例のほかに、妊娠期から分娩・産褥・新生児期まで1例を継続して受け持ち実習します。 実習内容の詳細については、実習オリエンテーションにて確認すること。		